

# どっこい生きてます!



潮騒 JTC の女性専用施設「るみの家」では7月初旬に、入寮者の皆さんが講師の指導を受けて初のクラフト制作に取り組み、それぞれのペースでバッグなどを仕上げていました。るみの家では施設長のルミさんを先頭に手探りで試行錯誤の運営が続いていますが、同じ依存症でも女性の回復は男性と違う複雑な背景や問題があり、なかなか「底つき」できない難しさがあるようです。潜在ニーズは高いにもかかわらず、各地のダルクでは「ノウハウがなく、女性の回復支援は難しい」と敬遠されがちです。全国的に女性向けの施設自体が少ない中、るみの家では就労支援に力を入れるなど健闘しています。

2016  
7

# 囚われの身にある 未知の仲間たちへ ～依存症は回復できる病気です!



今回は都合によりリニューアルした受刑者向けリーフレットに盛り込む文章を掲載します。ご了承ください。



あなたは今、罪を犯して囚われの身となったことで、深い絶望と後悔の淵に立っていることでしょう。初犯であれ、累犯であれ、その犯罪が薬物やアルコール、ギャンブルに関係するなら、根本には依存症という病魔が潜んでいます。一般的に考えて問題の本質が病気であれば、まずは適切な医療的ケアが求められますが、依存症は病気だと世間に理解されにくい面があります。非行や犯罪と絡むために、どうしても倫理的な視線で指弾され、理解者や支援者の輪が広がりにくいのです。結果、この国には依存症を非行や犯罪として罰する仕組みしかありませんでした。依存症者＝犯罪者として、治療や福祉的な支援から長く見放されてきたのです。

「好きで薬物を使い、アルコールを飲み、勝手にギャンブル漬けでそうなったくせに…」「やめられないのは単に意志が弱く甘えているだけじゃないか」「国の支援なんか当てにせず、家族の愛情と自己責任で治せ!」—こうした手厳しい、当事者の反論や批判を一切許さない冷たい言葉を、私達は何度耳にしたでしょう。その度に私達は身を縮めながらバッシングの嵐が止むのを待つしかありませんでした。それに当事者自身も、いつの間にか“世間の常識”に呪縛されて、「俺はなんて意志の弱いダメな人間なんだ」「このまま刑務所との往復が続くのか」「野垂れ死にする運命なら、自殺した方がましかもしれない」…こんな風に自分を呪い、奈落の底に転落してきたのが、これまでの人生だったと思います。

実は私も重症の覚醒剤とアルコール依存症者で、合計7回・通算約20年に及ぶ刑務所暮らしを経験してきました。何度か死の淵に立ちながらも、人生晩年の60歳でやっとDARC(ダルク)に繋がり、幸運にも助けられた一人です。私はこの奇跡とも言える恩恵に報いるために、残りの人生を依存症に苦しむ仲間の回復を手助けしようと潮騒 JTC を立ち上げ、日々奮闘しています。今では130人に及ぶ仲間達が自分のペースで回復プログラムに取り組んでいます。仲間達は過去の依存症歴から、重篤な病気や重い重複障害、生活破たん、著しい高齢化など困難な課題に直面しながらも、仲間との絆に支えられて施設生活に励んでいます。

囚われの身にある皆さん! 大丈夫、あなたは自分の人生に絶望する必要はありません。どうか人生を投げ出さないでください。依存症は回復できる病気です。あなたに必要なのは、一緒に回復を目指す仲間です。まずは私達を信じてコミュニケーションを深めて行きましょう。そうして晴れて自由の身になったら、一緒に潮騒 JTC で回復の道を歩みましょう。

(センター長 栗原 豊)

## 市民参加のビーチクリーン作業で海水浴場が綺麗に



鹿島灘を臨み良質の海水浴場が点在する鹿嶋市海岸部の清掃を、多くの市内団体や市民ボランティアが参加して同時に行う「第33回鹿嶋市海岸一斉清掃」が7月2日にあり、潮騒JTCの仲間たちも大勢参加しました。当時は曇りがちの天気でしたが、参加者らは軍手をはめビニール袋を手に、砂浜や草原に落ちている木くずやペットボトル、ガラスの瓶、破れた網の切れ端などを熱心に拾い集めました。午前8時から約1時間半の清掃作業で、鹿嶋市宮津台の施設本部に近い下津海水浴場が、見違えるようにすっかり綺麗になりました。

海開き(7月16日～8月21日)を前にした大規模なビーチクリーン・イベントとして定着しており、鹿嶋市や新日鐵住金鹿島製鐵所、鹿嶋市観光協会、鹿嶋青年会議所、鹿嶋の海岸を守る会などの主催で実施されました。市内の各種団体、企業、行政、市民らが参加して、下津海水浴場や平井海水浴場など鹿島灘に面した市内7カ所の海岸を一斉清掃する恒例の取り組みです。主催者によると、この日は2000人を超える市民や各種団体のメンバーらが参加し、浜辺に打ち上げられたゴミを拾い集めました。

潮騒の仲間達が参加した下津海水浴場は、透き通った水と綺麗な砂浜が魅力の、遠浅で泳ぎやすい海水浴場として県内だけでなく近隣県からも家族連れが訪れます。隣接して公営駐車場(400台分)があり、海水浴場への進入道路も整備されており車で利用しやすくなりました。また、サーフィン向きの波があり、1年を通して首都圏のサーファーにも人気です。潮騒JTCにも、海に近い地の利を生かしてサーフィンを楽しむ若い仲間がいます。毎年、海水浴シーズンになると、期間限定の海プログラム

として海遊びなどを楽しんでいます。

この日、清掃ボランティアに参加した仲間達は心地よい汗を流し、「毎年、潮騒は海水浴プログラムの恩恵を受けているので、感謝の気持ちで参加しました」「この綺麗な海岸の魅力を地元の財産として残していくのは、潮騒の義務だと思う」「潮騒にとっては自分たちの海岸なので毎年参加しています。気持ちのいい海になりました」「地元の方々と協力し合って何かをなし遂げるといのは、とても貴重な体験でした。こうした機会があったらまた参加したいです」などと話していました。



第 1 回

短期連載：潮騒サポーターの熱い魂と情熱

# 潮騒は日本で一番 難しい事に挑んでいる

外部メッセージを届ける恵一朗さん

潮騒 JTC は、依存症の回復を目指す人達の間施設として着実に鹿嶋市や近隣地区に根を張りつつあります。当事者の自助努力はもちろんですが、そこには人知れず潮騒を下支えするサポーターの皆さんの熱い支援があります。そこで今秋(11月27日)に開く潮騒11周年フォーラムでは改めて支援者への感謝を込め、「スピリチュアル・コネクション(魂のつながり)～広がれ潮騒の輪!!」をテーマに新たな飛躍を誓います。これに先立ち、今回から短期シリーズで潮騒を支えてくれている支援者について取り上げます。

## 鹿島ダルク時代の出会いがきっかけに

第1回は、アルコール依存症の優れた回復者で、千葉県内の自助グループを力強く支える古参メンバーの恵一朗(ケイイチロウ)さんです。潮騒サポーターの重鎮として現在、NPO法人・潮騒 JTC の理事を務め、AA や NA、GA の仲間達に声を掛けて貴重な外部メッセージを運んでくれる存在です。

恵一朗さんと栗原センター長との出会いは10数年前、鹿島ダルク時代に遡ります。当時、栗原センター長はダルクに繋がって半年足らずでしたが、「一緒にメッセージを運ぼう」と恵一朗さんに誘われ、千葉県内の大きな大学病院で看護師ら100人以上を前にした自助グループ(AA)の公開ミーティングに、当事者の一員として参加したのが始まりでした。その後、栗原センター長は施設運営を巡る反発から鹿島ダルクを離れ、決意も新たに鹿嶋市役所前のアパートを活動拠点に潮騒 JTC の前身となる「鹿嶋潮騒ダルク」として独立しました。地元支援者がいない困難の中で、恵一朗さんは折りに触れて千葉県

から足を延ばして外部からメッセージを届け、栗原センター長を励ましました。

施設閉鎖の危機にあった鹿嶋潮騒ダルクでしたが、ミーティングへの原点回帰と回復プログラムへの取り組みが次第に功を奏し、仲間達のスリップが減りました。何とか施設運営が落ち着き始めると少しずつ入寮者が増えたため、施設を市郊外に移転しました。恵一朗さんは引き続きミーティングの重要性を説き、不定期だった外部メッセージの固定化を提案。その結果「潮騒アディクションセミナー」として原則的に隔月開催となり、会場もキャパの大きい鹿嶋市まちづくり市民センターに移しました。

## 米国への視察研修ツアーが大きな刺激に

この頃には種々の事情から施設のリニューアルが求められ、現在の潮騒 JTC に名称が変更されました。文字通り就労支援にシフトするようになると、恵一朗さんは米国で開催された AA 世界大会への参加と、大規模な回復施設への視察研修ツアーへの参加を栗原センター長に促しました。この研修ツアー体験で大いに刺激を受けた栗原センター長は、本格的に就労支援に特化する決意を固め、ファイザープロジェクトの恩恵を受けたことを弾みに職業訓練や就労支援に絡む農場や直売所、自前の食堂、作業所などを次々に整備し、農業隊や作業隊を発足させるなどハード・ソフトの両面から特長ある施設運営の流れを形成しました。

恵一朗さんによれば、国を挙げての就労支援体制が充実している米国では中間施設の社会復帰率は50~70%になると言います。これに比べ日本の事情は米国から3、40年も遅れており、ほとんど手付かずの現状です。それ



だけに恵一朗さんは、徒手空拳で就労支援事業に挑む栗原センター長の決断力や行動力を高く評価し、「潮騒は日本で一番難しい事にチャレンジしている」。その上で「依存症は一筋縄ではいかない病気。精神的、霊的に狂っている者達を回復させるのは、正に神の領域ともいえる仕事だから、実績や結果を焦る必要がない。潮騒では、どうしてもなかった荒くれ達がスタッフになっているだけでも凄い。一銭もならない仕事に情熱を傾ける栗原所長の姿勢には頭が下がる。病院でも刑務所でもできない事をやっている栗原所長を、私は何としても手助けしたい」と力説する恵一朗さんは、一貫して潮騒への支援を惜しみません。

## 「質問 OK」のオープンミーティングも

長く続く潮騒アディクションセミナーも、今では近隣県から AA や GA メンバーが貴重なメッセージを運んでおり、全体ミーティングの後にアルコールや薬物、ギャンブルに分かれ、「質問 OK」のオープンミーティングや数少ない女性のクローズドミーティングも持たれています。よく指摘されるように、自助グループや施設にとっては、新しく登場した仲間は古参メンバーにとって自分たちの狂っていた時代を映す、いわば神に近い存在。その意味で潮騒のセミナーも入寮者に新鮮な刺激となっているだけでなく、自助グループミーティングとは一味違う色合いで施設運営の活性化に寄与しています。

依存症の回復では、施設には施設の、地域には地域の、それぞれメリット・デメリットがあり、当事者側にも事情や個性があるので一概にどっちがいいとは決め付けられません。栗原センター長は「施設生活が長くなると、どう

してもマンネリ化して無気力になり兼ねない。その意味で、毎日仕事をして自助グループに通いながら地域で回復している人達の存在は、潮騒のプログラムを終えて社会復帰した時の良いモデルになる。いろんな意味で新鮮な刺激や社会復帰への動機付けを与えてくれるので、私が施設を始める前から長い付き合いのある支援者の恵一朗さんには足を向けて寝られません」と感謝しています。

## 「助けられているのは私達の方です」

恵一朗さんは「今日来てくれた新しい仲間からは、どんな話が聴けるだろうと、自分自身がワクワクしてメッセージを聞かせてもらっている。毎回、新しい発見や出会いがあり、それこそ AA や GA の仲間は自分の回復に繋がっていると考えて参加してくれている。だから助けられているのは私達の方です。もし私達のメッセージが役に立つとしたら、潮騒の仲間が社会に出て躓き失敗した時に“そう言えば潮騒に居た時に地域の仲間があんな話をしてくれたっけなあ”と思い出してくれればいい。将来、スリッパ回避や自助グループに通うきっかけぐらいにはなるかもしれない」と息の長いビジョンを示しています。

恵一朗さんは潮騒 JTC のような中間施設を経ずに個人的なつながりで回復の道を歩み、就労できましたが、これについて「私が施設につながらないで働いているのはステップとスポンサー、そして地域の自助グループ・ミーティングと仲間のおかげ。このプログラムはとても霊的で、自我やゆがんだプライドを改め、自分に真の謙遜をもたらしてくれる。仕事で毎日体はきついが、心はとても楽になれる。自分以外の力に身を委ねて、今はクリーンの喜びを感じている」と話してくれました。(み)

## 第7回「アルコールの仲間が増えて施設運営が安定する」

ユタカ vs トム  
対談

——潮騒の前身、鹿嶋潮騒ダルクは難産のスタートだったものの、ミーティングを施設運営の中心に据えることで危機を乗り切りました。そうして細々と活動をする中、次第にアルコール依存症の人たちが秋元病院などから繋がりはじめ、後に開花する就労支援の下地が作られるようになっていった訳ですね。それが前回の話の流れでした。少し話が重複するかもしれませんが、今回は農村部の施設に移る流れを追いたいと思います。(司会進行・広報部)

### 秋元病院と繋がり 潮騒に強い味方ができた

**ユタカ** あれからもう8、9年が経つのかな。鹿嶋潮騒ダルクと名乗って、その日暮らしの自転車操業だったあの頃が懐かしく感じます。そう余裕を持って振り返られるのも、施設運営が軌道に乗ったからなんですけど…。当時はまだ、移転先で反対運動とかの厄介な問題があったんですが、とにかく“継続は力なり!”でした。仲間達も腰を落ち着けてプログラムに取り組むようになり、施設の雰囲気も落ち着いてきた。やっと私も一息つけるようになったんですが、そのタイミングで新しい顔ぶれが次々に登場してきた。アルコール専門病棟を持つ秋元病院(千葉県鎌ケ谷市)から繋がってくる仲間が増えて、施設のマネジメントとしては大きな後押しになりました。当時、秋元豊院長はアルコール依存症の治療でよく知られた先生で、家族療法での実績が高く評価されていました。そうした専門病院との繋がりができたことは、私にはとても大きな自信となり、力強い味方ができた感じでした。

——それまでは鹿嶋ダルクからの薬物関係の人たちが中心だったんですね。覚醒剤やシンナー、処方薬などに長く依存し、なかなか回復できない重症のアディクト

達が多かったと聞いています。でもどうなんですか、アルコールの人達と薬物の人達はある意味で水と油、一緒に回復を目指すのは難しいのでは?という懸念の声も耳にしますが…。

**トム** 僕もアルコールの仲間が多くいますが、概して優れた人間性を感じます。個別性はありますが、スピリチュアルな面でお手本になる人達ばかりです。一般にアルコールの人達はきちんと学校を出ており、社会人として普通に働いて来た人が多いように感じます。もともとお酒への親和性が強く、依存症になる素質があったのかもしれないですが(僕もそうなんですけど…)、お酒で仕事や人間関係などのストレスを発散してきたのが、知らず知らずのうちに深酒になり、酒量も多くなって、気が付くと連続飲酒状態に陥っていた。もはや自分の意志ではコントロール不能になっており、仕事や人間関係に躓くようになっていた。借金が増えたりして、家族との不和から家庭崩壊に至るケースも珍しくない訳です。よくアルコール依存症の平均寿命は52、3歳とされますから、だいたい40歳を超えて自覚症状が顕著になるようです。むしろそれまでは社会の第一線でバリバリ仕事をこなしてきた人達ですから、それなりに基礎教養があり、社会常識もある。素面だと、とても評価が高い人達なんです。

### 薬物の人達は就ける職業が限られている

——そういえば、アルコール依存症が背景にあると指摘される美空ひばりや石原裕次郎は52歳、どうみてもアル中だった赤塚不二夫は56歳で亡くなっています。まあ、過度な飲酒で内臓や脳に長い間負担を掛け続けた結果の死ですが、やはりアルコールは合法薬物だけに厄介といえば厄介ですね。

**トム** それに比べて薬物の場合は開始年齢が圧倒的に若い。小学生でゲートウェイ・ドラッグのたばこやアルコールを経験し、中学1、2年ぐらいからはシンナー、その後はお決まりのように覚醒剤や大麻に手を出すという流れです。今はシンナーは少数派のようですが、当然ながら高校への進学は難しい。たとえ高校に進学しても、すぐに中退に追い込まれる。だから人間関係を築いたり、社会常識を身に付けられないまま大人になっている。クスリ漬けで20～30代は仕事もままならず、精神科病院や刑務所を往復するケースが圧倒的に多いんです。学歴もないし、社会経験もないから、どうしても仕事は限られてしまう。職業に貴賤はないと言いますが、どうしたって安定した職業には就けない。勢い土木建築周辺の日雇い賃仕事や水商売、飲食店でのアルバイトなどに偏ります。なのでアルコールや薬物に手を出しやすい就労環境になってしまうんです。

**ユタカ** 私に限って言えば、昔はアルコールと覚醒剤のチャンポン人生でしたから、余計に人間的な成長が思春期でストップしている面があります。加えて進学したかったけど高校には行けなかったから、人一倍学歴コンプレックスが根強かった。それが頭の片隅にあったものだから、一念発起して今春から地元の夜間高校で学ぶようになった訳なんですけど…。

## アルコールの人達は スタッフに成長してくれた

——で、どうなんですか、センター長。アルコール依存症の入寮者が多数派となって施設的环境も変わったんじゃないですか？

**ユタカ** やはり曲がりなりにも社会に出ていた過去がある人達ですから、内面の豊かさというか、人間としての成長の度合いがまず違うなあと感じました。ともすると自分勝手な振る舞いが多い薬物の仲間達と違って、彼らにはそれなりに社会常識があります。大人としての会話がきちんとできるので、地元とのトラブルが少なくなりました。私も比較的楽にコミュニケーションが取れるので、いちいち細かく指示しなくても各自の判断に基づいて安心して物事を任せられる。それに仲間を引っ張っていく力量を持つメンバーが多くなったことも大きいですね。スタッフとして成長してくれた。当時はまだ20人弱という施設環境でしたから仲間への目配りも行き届き、スリップするケースが減りました。薬物の人達を含め全体的にステップの理解が深まった時期で、着実にクリーン期間を延ばすメンバーが増えてきましたね。

—— そんな風に施設運営が軌道に乗り始めたことで入

寮者が増え、手狭になった施設を離れて郊外の農村部へと移転する訳ですね。そして思い切ってクリニックだった跡地と建物を入手する。当然、大きな借金を背負う訳ですが、その決断は早かった？

**ユタカ** いや、それなりに迷いましたよ。施設向きの建物は競売物件でしたが、ローンでの支払いとはいえまだ銀行に信頼のない私には大きな買い物でしたからね。でも治療施設を充実させたいという熱い思いが先に立ち、施設条件に見合うクリニック跡地は是非とも手に入れたい物件でした。言葉は悪いかもしれませんが、その大義のためなら失敗しても悔いはない。もはや怖い者知らずという感じでしたね。今もその姿勢は変わっていませんが、目の前にチャンスが訪れたなら迷わずにチャレンジしよう、大きな掛けだとしてもハイヤーパワーに全てを委ねていくしかない、と。

## 近藤さんに似たリーダーとして オーラを感じる

**トム** その後の施設の拡大を見ても、ユタカさんの迷いのない判断には驚かされます。とても僕なんかには真似ができません。施設の拡大が自己目的されるようになったら問題ですが、ユタカさんの場合は依存症の仲間のためなら命を傾けても悔いはないという、他には真似できないパワーというか情熱があります。計算づくなら、とてもやれないものです。ある種、近藤(恒夫)さんにもリーダーとして同じようなオーラを感じる時があります。僕はそうした器の大きさが、リーダーの秘めたる魅力だと思っています。いい意味でのお人好し、大らかさですかね、適当な言葉が見つかりませんが…。恐らくそれが仲間にも慕われ、「この人のためなら一肌脱ごう、自分が側で支えよう」と思わせるのだと僕は思います。

**ユタカ** 過分な評価だとしても嬉しいですね。

—— ともかくもダルクを運営するにあたって最適の空間を手に出れました。これで施設運営にも弾みが付いたんですか？

**ユタカ** そうですね。やっと施設らしい施設環境が整った。部屋数が8つあり、20人以上が寝食を共にできる、広めのミーティングルームも確保できた。苦勞の末に最適な施設を入手できたんですが、予想を超えてその後も入寮者が増え続けたので、すぐに次の施設候補を探し出さなければならぬ状況でした。それに、水面下でくずぶついていた名称問題がのつびきならなくなり、決着を付ける動きに繋がりました。

—— その辺りの話は次回やりましょう。(この項続く)

# クラフトテープでカゴ作りにチャレンジ!

～女性ハウス「るみの家」メンバーがオリジナル作品作り～

**やら**

初めは「大変な作業だなあ」「不安だなあ」「私に出来るかなあ」…と否定的な思いが沢山ありました。けれどもやっていくうちに楽しくなってきた、「どんなカゴが出来るんだろう!」とワクワク感に変わってきました。あっという間に2時間が過ぎ、「もっとやりたかったなあ」「次が楽しみだなあ」と気持ちに変化して、次回のカゴ作りがとても楽しみになりました。もっと早く出来るように、そして自分でもアレンジ出来るくらいの腕前になりたいです。みんなのカゴを見ると、とても素敵な感じてました。私も刺激を受け、「よ～し頑張るゾ!」という気持ちを強く持つようになりました。完成が楽しみです。

**めい**

もともと手芸やビーズなど細かい作業が好きな私は、施設のプログラムにカゴ作りの話が上がった時から、とても楽しみにしていました。教えて下さる先生方の一人も面識のある方だったので、ますます想いが高まりました。いざ始めると、想像以上に緻密で1ミリ単位での計測、力の入れ加減など難しいものでしたが、くず入れを作り終わった時は愛着が湧きました。リーダーということもあり、教えられるのが苦手の私が仲間のフォローをするという大役まで頂きました。慣れてきた仲間はアレンジを加えたり、手早になつたりでした。私もバックを完成させました。来月に母に会えるのでプレゼントしたいなあと思っています。今ではクラフトテープに夢中で創作意欲が湧いてきます。次は何を教えてもらえるのか、楽しみです。

**れいこ**

初めてカゴ作りを経験しました。とても単調な作業ですが、とても奥が深い作業です。例えるなら“神経衰弱”のような根気を必要とする作業でした。それだけに、私たちアディクトにとっては大事な「忍耐力」というものを得たような気がします。一つひとつ丁寧に作業を重ねる中で、少しずつ完成していく様子がとても心地よく感じられ、私も達成感を得ることが出来ました。とても楽しかったです。

**マコ**

私は生来、手先が不器用で、何をやるにも細かい作業は避けて生きてきた気がします。けれど、今回のカゴ作りはそんな後ろ向きの姿勢を変えるほどのインパクトがありました。素晴らしい先生の指導の下で、私のような者でも何とか形にできるんだという自信を持ってました。こんなに必死になってカゴを作っている姿を娘が見たらどう思うだろうか、と少し気恥ずかしくもなりました。何しろ子育ても不器用で体当たりの私でしたから。また、機会があれば教えていただきたいと思っています。

**みく**

初めてカゴ作りを体験しました。クラフトテープを一定の長さに切り、それを組み合わせ、また短いもの長いものを組み合わせて行く細かい作業です。結構、計算しながら作るので頭を使います。1センチでも狂うと大きさが違ってしまいますので、先生の言うことに注意深く耳を傾けながら、分からないところはすぐ聞くようにしました。一つでも組み合わせを間違えると、また最初からやり直して

す。何回となく先生にテープをほどかれました。「出来た!」と思って先生に見てもらおうと、さすがにプロですね。一目で間違っているカ所を指摘され、またやり直します。単調な作業に見えて細かく手先を使うので、つったりします。基本を覚えてしまえば、いろいろとアレンジを楽しめるとの事ですが、私にはまだまだ先のようなです。覚えの早い仲間もいますが、私は私なりのペースで作り上げていこうと思っています。いつの日か店頭に並べられるくらいのパックが作れたらいいなあ。

**なあな**

今まで私なら覚醒剤がないと、とても細かい作業なんて考えられませんでした。そして集中も出来ませんでした。「るみの家」に来て約6カ月…、「薬物がなくても何もかも出来るんだ!」「クスリのない新しい人生を歩めるんだ!」との思いや自覚を深め、いろんな学びを得ています。そして今回クラフトのカゴ作りにチャレンジ。以前なら苦手だった細かい作業に、今ではとても楽しく取り組んでいます。少しずつだけど、回復しているんだなあと思います。これからも色々な作業や体験もしていきたいです。

**あみ**

7月に入り、夏ってということもあってか、クラフトテープでカゴを作ったり、バッグを作ったりするプログラムがありました。私は仲間に教えてもらいながら、初めてこのプログラムにチャレンジしました。最初は出来るかなって微妙な気持ちだったけど、やり続けているうちに楽しくなり、手早く作業が出来るようになりました。まだ完成はしていないけど、3時間あれば一つ出来るくらいの早さで出来ています。こうした取り組みは小学生以来の経験だったので、久しぶりにワクワクしながらやっています。完成したら、それを家族にあげたいなあなんて思っています。世界に一つしかない自分のオリジナルな作品を作ります。

**ゆうこ**

7月4、5日にクラフトを使ったカゴ作りに挑みました。見た目は簡単ほく見えただけで、やってみると細かい所を隠す技術があつたり、綺麗に見えるように考えたり、やりだしたら色々大変でした。それでも私はカゴを二つ作ることが出来ました。でも、まだまだ技術は未熟です。この先ちゃんとやってみたいと思いますが、人に喜ばれるほどの技術が身に付けられるかどうかは分かりません。でも、頑張っってやっていこうと思います。今度はバックを作りたいです。そして自分がふだんお気に入りとして使ったり、お客様が少しでもお金を払っても欲しいと思うような作品を作れたらなーと思っています。



## 多彩な太鼓演奏で盛り上がった 茨城ダルクフォーラム

先輩ダルクとして地域に根を張る「茨城ダルク・今日一日ハウス」(岩井喜代仁代表)の24周年フォーラムが7月17日、茨城県結城市の市民文化センター・アクロス小ホールで開かれ、会場にあふれる参加者で終始盛り上がりました。潮騒 JTC から仲間達が参加し、手本となる独創的な太鼓演奏などで大いに刺激を受けました。

講話では日本ダルクの近藤恒夫代表やスタッフのマーシーが壇上に立ちましたが、仲間達のけれん味の無い体験談にも大きな拍手が送られました。今回はスタッフの一人が仲間達への独自調査を基に制作したパワーポイントを使い、6月に施行された「刑の一部執行猶予制度」の課題や問題点を施設側から浮彫にして、会場の関心を集めていました。圧巻だったのは茨城ダルクの真骨頂である和太鼓演奏のステージで、日頃練習に励んだ成果を披露しました。ほかにも磐梯ダルクが少数ながらも和太鼓演奏を披露したほか、女性シェルターの琉球太鼓演奏が会場を沸かせました。茨城ダルク太鼓の“師匠”でもある愛泉幼稚園児による和太鼓演奏もフォーラムに花を添えていました。

茨城ダルクは名古屋や横浜ダルクなどに次いで、全国4番目のダルクとして1992年に創設。岩井さんのパワフルな活動で早くから行政にアタックし、各県の精神保健福祉センターや地域保健所に相談窓口の設置を促したほか、社会福祉法人化を目指しました。また、家族会の運営にも力を入れて各地に家族会を誕生させ、全国組織にまで発展させました。岩井さんは後進の育成にも力を注ぎ、ダルク未設置だった東北地方や北陸3県、山陰山陽地方に次々とダルクを設置してきました。早くから毎年夏場に公開フォーラムを開き、仲間達の成長を多彩な内容で知らせてきました。



▲多彩な太鼓パフォーマンスを中心に構成された茨城ダルク24周年フォーラム

## みのわマック 38周年記念 感謝の集いに参加して

「みのわマック38周年記念感謝の集い」が6月19日、東京都板橋区内で開かれ、潮騒からも入寮者が参加しました。以下は仲間の感想です—。

◇

この日の集いでは、まず山本晋也さんの話がありましたが、体調がよくないのか50分の予定が10分ぐらいでした。山本さんは「いまだに酒を飲まないでいるのはマックにつながっているからだ」「一番うれしいのは元気でいる仲間の顔を見ること」と話し、その後は自分とつながりのある仲間の話をしてくれましたが、二つの事が胸に響きました。一つはスポンサーのことです。なかなかスポンサーに会えなくても、何かあった場合でも、まずスポンサーの顔を浮かべることでスリップがなくなるとの事です。二つ目は中間施設でのプログラムの意味でした。例えばソフトボールでは、仲間と触れ合い、仲間に対しての配慮ができ、そうすることで施設を卒業して、社会に出て大変役立つと話してくれました。

昼食後、みのわマック入寮者の歌や踊りがあり、これも大変良かったです。バカになる時はとことんバカになることだ、と思いました。次にヨガの丸橋先生の話ですが、先生はいつも笑顔でいるので悩みなどないだろうと思っていたのですが、人それぞれ困難を乗り越えて生活しているのだ、という事を改めて思い知りました。その他、仲間のメッセージを聞いて私が思った事は、スリップをしないためには自分を点検し、常に自分に正直になり、ミーティングで告白することを実行していく事。思い上がりを抑え、常に謙虚でいることだと思いました。私が以前とは違っていたのか、みのわマックの仲間に変に歓迎され、「心配していた」と言ってもらったことが凄くうれしかったです。今後は常に自分の棚卸をし、プログラムに力を入れていく事が自分の回復だと思いました。



▲山本晋也さん(左端)と一緒に記念写真に収まる栗原センター長と潮騒の仲間たち

# 受刑者からの手紙

## どうして覚せい剤の魔力にだけは勝てないのか…

シュンさん、フジさん、スタッフの皆様、毎度のお便り有難う御座います。私が務めている工場では何台かの扇風機が設置されたのですが、設置の仕方から私達受刑者に直接風が当たる事はなく、いつもムンムンとした熱気の中で日々の務めに勤(いそ)しんでおります。私は中卒なのですが、他施設で図書係として居た時に、先生の勧めで受講(通信教育)させて頂き、何単位かを取得し認定証も頂きました。これもやはり一人ではなく何名かの仲間達と一緒に学ぶ事が出来たので、一年間やり通す事が出来たのだと思います。

人は生も死も一人ですが、生のある限り苦悩と希望の間を行ったり来たりし、人という文字が示す通り「仲間と仲間が支えあって生きていく事」なのだと思えるようになりました。肉親は「仲間は大事なのだよ」と当然の様に言っていました。私の性格は結構気が長い方だと自分では思っていますので、普段の生活の中ですぐにはカッとはならない方だと思います。すぐに感情的になってしまう事は殆どなく、詰まらない事でトラブルを起こす様な事は、ほとんどないと思います。でも、暑さのせいもあるとは思いますが、ほんの少しの事でカッと成ってしまう事が最近よくあります。

私には「もしも自分がこうしたら、こうなるのか?」くらいの頭はあるのに、どうして覚せい剤の魔力にだけは勝てないのか…、それを思うと残念で仕方がありません。そちらから送付頂いた「塙の中で」の一章一章が自分に感ずるものが有り、其方のセンターに身の置き処を相談して本当に良かったと思っています。そこで「依存症と言うものは恐くて厄介な物である」とも、改めて感じる今日この頃です。フジさんの言うように「無力」であるが故に心して取り組まないと再起は叶わない」と思いました。

また「こうした文通も回復の一環」と記してありましたが、今の私には「新しい人生に向かって一緒に頑張ろう!!」と言ってくれる人がいるだけで嬉しく、勇気が湧く思いです。今は、捕まった時の後悔、出所時の胸弾む想いなど、再認識すると、やはり無欲で身の丈に合った生活が何よりです。元気でやっておりますので、これからも宜しくお願い致します。  
(神奈川県 O・T)

## この中で一日一日を大切に生きて行くだけ

栗原センター長、シュンさん、パンフレットを送付頂き大変有り難う御座います。73歳になるセンター長が夜間高校に通いながら、勉強をしていらっしゃるお姿を想像致しますと、どれ程身体に鞭を打って頑張っておられることか、本当に頭が下がる思いで一杯です。私は潮騒 JTC にお世話になって居ました間、センター長の車の運転手を任せられ、何時も傍に居させて折りまして、センター長の真っ直ぐな性格をよく分かっているつもりです。そんなセンター長が現役として「現在」を一生懸命に生きておられる姿は、世に数多くいる依存症の仲間達、誰もが良きお手本として「鑑」とする存在である事は間違いありません。自分が真似をしると言われてもとても無理な事で、潮騒の皆様が活躍をなさって居る姿をニュースレター等で見聞きする度、自分が大きく遅れてしまって居ると考えますと、情けなく思えて仕方がありません。

そんな私も先月 53 歳の誕生日を迎えました。塙の中にて何度、味気ない形で自分のバースデイを迎えてしまったことか…、誰も祝ってくれる家族が居ない現状を考えますと、自業自得とはいえとても寂しくなります。とにかく現在は「この中で一日一日を大切に生きて行くだけ」と己に言い聞かせております。

話は変わりますが、先日当所内でソフトボール大会が行われました。私はピッチャーで 5 番を務めました。初戦を 5 対 4 と、あともう 1 点に泣き、敗れてしまいました。その後、その時の相手チームが勝ち進み、決勝まで進みましたので、本当に悔しいです。また来年がありますので、今度こそは頑張りたいと思っています。

(長崎県 O・K)

減多に塀の中の生活は窺い知ることができないが、自由もプライバシーもなく制約ばかりの中でも、増え続ける高齢犯罪者にとっては福祉施設並みの居心地のいい場所だという。出れば地獄、入れば天国という逆説の裏には社会的弱者の救われない現実がある。知的障害や依存症の受刑者の現実も、この世知辛い社会の病根と無縁ではないように思う。

## 回復を促す手紙は初めてなので 対処に悩んでいる

お手紙有り難うございます。私はこれまで何回も服役し、現在は68歳になります。薬物依存症であることは私自身が分かっており、それを克服することが出来ず、現在に至ります。出来る事なら残りの少ない人生を、社会の片隅で良いので、静かに暮らしたいと思っています。(身元)引き受けも無く、保護会も受け付けない私のような者でも、皆様の一員として生活出来るか不安です。正直に言って、今までこうした回復支援施設による依存症回復に向けた取り組みを促すメッセージの手紙は始めてであり、どう対処すべきか悩んでおります。

毎回「今度こそは薬物を止めたい」という信念は強く、いつもそのつもりで出所するものの、環境の責任と他者に責任を押し付ける私の勝手な言い分で、依存症に立ち向かう姿勢と心構えが違っていた様にも思えます。これまでに依存症回復施設が有るのは知っておりましたが、高齢な私でも、加えて何回も服役を繰り返す依存症の私でも、それを克服したいという気持ちだけで、皆さんと一緒に生活出来るか、とても不安でなりません。

薬物と縁を切る気持ちは強く、今度こそと云う気持ちで一杯です。いずれにしましても、お手紙を頂き有り難うございました。お手紙を励みに残りの人生を頑張ります。最後に、皆さんと一緒に歩く方法が有るのでしょうか?お便り頂けたら有難いです。

(東京都 S・M)

## ようやく自分と向き合い 考えるようになった

ご担当のスタッフの皆様、お便り有り難うございます。潮騒通信「どっこい生きてます」に掲載されている方々の回復物語を読んでいると、私自身もそうですが、本当に人生って色々あるもんだと思うばかりです。私も、何度かのやり取りで自分と言うものを、これからは成長させていきたいと考えています。今の気持ちとしては、もう薬とは手を切りたいと思っています。私にも不安はありますが、自身が病氣(=依存症)であることを認める事が出来た今、期待もしています。社会復帰してからも、私は病氣であることを忘れずに、生きていければいいなと心から思っています。

便りの中に「いつも書いて頂いている、皆仲間です」とありますが、私は本当に勇気付けられます。回復したいと思う気持ちを持って一日一日を戦っていきたい決意です。私も捕まってすぐは、ただ運が無かったと思っていたのが正直な気持ちです。でも、ようやく自分と向き合い考える事が出来るようになったように思えます。薬を止めたいと思ったので、その為にこれから色々と考えていく中で相談をさせて頂くと思いますが、宜しくお願いします。

(長崎県 F・T)

## 3年後に健康に出所出来た時には電話させて頂く

ユウキ様、御丁寧なお手紙を有難う御座いました。私は現在公判中で、決審は9月か10月頃だと想像しておりますが、量刑は3年ぐらいかと覚悟しております。それで社会復帰後はお金もなく仕事もないので、生活保護を受給するつもりなのですが、私のような者でも「潮騒」に入寮させて頂く事は出来ますでしょうか?

勿論、薬物依存を克服する意思が大前提なのですが、その気持ちに嘘偽りはありません。ただ高齢の為、仕事もなく、元の環境に戻れば再犯は火を見るよりも明らかだと思えますので、地元に戻らずどこか静かな処で生活するつもりなのですが、もしも潮騒の皆様と一緒に暮らせるのなら、心強い限りなのですが、こういう事情の私でも良いのでしたら…と、案じております。いずれに致しましても、社会復帰は3年後ですから、自分が健康に出所出来た時には電話させて頂きたいと思っております。

(東京都 S・M)

# しおさい、俳壇

7月のお題 海開き

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.30

センター長 栗原豊

## 梅雨盛り罰房にする百面相

手紙ありがとう。そして面会にも来て呉れてありがとう。丁度、間が悪く会うことが出来ず、残念に思っています。“ムカツ”と切れてしまって、仲間と仕事に絡んでの事だったのですが…、いつになっても短気なところが直りません。取り調べの結果、7日間の懲罰が言い渡されたのです。その為に面会が許されなかったのです。その日のうちに「差し入れがあったぞ」と受領の指印を取りに来たので、君が来てくれたんだと分かった次第です。罰房に座りながら嬉しさの内にも、「なんで、どうして来てくれたのだろう?」と心配したり、さまざまに思いを巡らしたりしていました。お金もなく寂しい思いをしているところだったので、助かりました。兄に宜しく伝えてください。

罰が明けて手紙を書こうと思い、直ぐに親族表に君とH子さんの二人を追加記載願いを出しておいたのです。昨日、それが許可になったところでした。そこへ君からの手紙が届き、タイミングよく受け取ることが出来ました。刑務所では親族以外の人との面会も書信の発受も出来ません。しかも、此処での処遇が罰を受け三級から四級に落とされたので今は月に一度の発信しか出来ません。三級に復級するのに三カ月かかります。すると月に二回の面会と発信が出来るのです。その他に三級者集会といって隔月(奇数月)三百円ぐらいのお菓子を食べながら、テレビを視聴出来るのです。こんな事が、此処での生活では楽しみなのです。更に二級に進級すると集会が毎月となり面会発信が月四回に増えます。外からの書信は親族に限りますが、毎月何通でも受け取れますから、手紙をください。手紙は楽しみの一つなので、どうか宜しく。私が君を知っているのは小さい頃、可愛い少女の頃の事です。今の三十歳の君の事は何も知りません。何でもいいですから、手紙で教えてください——。

これまでの内容と重複するが、獄に繋がれていると何よりも外部とのコミュニケーションに飢える。獄中では孤独が一番辛い。姪は唯一、文通が許された相手であり、彼女からの手紙がどんなに当時の私を勇気づけた事か。この経験が下地にあるから、私は今も受刑者との文通をととても大事にしている。

洗面は今日も産湯や梅雨明ける

うすやみの獄舎(ひとや)の谷間蚊食鳥

幼な日の  
兄の手解き  
海開き

特選句

あべ  
兄弟や姉妹は遊びにも喧嘩にも一番身近で  
思い出深い。歳を重ねた今も海開きの頃兄か  
ら泳ぎ方など習った事を思い懐かしい。私は  
川にも海にも近く友と遊びましたが、兄は亡  
くしたのでこの句を特別に微笑ましく思いま  
す。

海開き  
行くも波乗り  
道路かな

特選句

みく  
波乗り道路は千葉県一宮町から九十九里町  
の約十七キロで、海の波の見える如何にもそ  
の名に相應しい道路。その何処かの海開きに  
参加する、窓に見える海に心も弾むし、寄せ  
る波に乗った思いにもなる楽しい句です。

花火待つ  
港の闇に  
誰も向き

特選句

ユウ子  
横浜など都会の港は船や街の燈で明るい  
が、大洗や銚子港などは暗い。その港の揚花  
火を今か今かと待つ、また、港に限らずこの  
小見川や鹿島の花火も土手や畦道の暗がりか  
ら待つ。少し田舎を思う実感の句です。

海開き  
幼き友に  
会うことも

おの

この鹿島、波崎、大洗など今  
は高速道が整備されたので東京  
などから多くの人が参加出来る  
様になった。思わぬ処で知人や  
幼い頃の友に会う、共に裸の姿  
で昔を語るのも面白く実感の句  
です。

海開き  
サメよ今年は  
来ないでね

しげ

鮫は約五百種類で其の内三十  
種が人を襲い、特にホホジロ鮫、  
イタチ鮫は凶暴とも。昨年は大  
竹海岸に現れたので海水浴場は  
閉鎖になった。今年はまだ判ら  
ぬが、来ないでと願うしかない。  
大きく思えばこれも大自然の出  
来事の句。

押し寄せて  
子等の歓声  
海開き

ゆたか

湘南の海は若者も多いが、こ  
の鹿島などでは子供達が多いか  
も、神事の後に歓声を上げて駆  
け出すのはやはり子供達で、元  
気な声は明るく微笑ましい。子  
の日は懐かしい句。

早起きの  
散歩がてらに  
夏の浜

まさる

海の近くに住んだり海の旅な  
どでは早起きして散歩などする、  
人の少ない朝は清々しく快い。  
この鹿島の浜は何処までも続き  
少しのロマンにも浸る句です。

海開き  
今年のゆかりん  
ビキニかな

けん

ゆかりん、は孫さんか。昨年  
はまだ中学生だったのが今年が高  
校生?大胆にビキニの姿でやつ  
て来るかも。特に都会の子はア  
イドルなど真似た水着で驚か  
す。明るい乙女を思う句。

潮騒と  
入道雲に  
海開き

ぴー

海開きの日が必ずしも晴天で  
はなく、止む得ず小雨の中で行  
うのをテレビで見ますが、この  
鹿島灘では十六日が海開き、こ  
の句の様な晴天の海開きを祈り  
たい句でもあります。

秀逸句

今月の秀逸句

佳作

海開き疲れて午後 の浜に寝る	モト	梅雨明けの波けふ 静か鹿島灘	そら
今日晴れていよよ 下津の海開き	シマ	海開きまだけふ寒 き鹿島灘	いるか
海開きされど今だ に肌寒き	めい	海開き暦めぐりて 晴れを待つ	おの
海開き波に打たれ て一日かな	タカコ	はみ出しをどこま で隠す海開き	こば
夏が来た海に行こ うよ仲間とね	あみ	海開き親子ではし ゃぐ下津浜	こば
歓声のあがる下津 の海開き	レイコ	海開き先ずは浄め の塵拾い	しげ
もう一度子供と行 かむ海開き	まこ	幾年の思い出記す 海開き	とむ

どっこい

# 私も生きてます ~我が回復記~ 「トンちゃんの回復記」

第5回

自分は、四人きょうだいの末っ子(三男)で、兄二人と姉一人。でも、二人の兄は既にこの世を去っており、両親も相次いで亡くなった。母は父親のアルコール問題のとばっちりを受け、苦勞の多い薄幸な人生だった。母と離婚した父親も晩年は不遇で、誰にも看取られずに半ば孤独死のように亡くなった。だから今は、都内での家族と暮らす姉だけが唯一存命の身内だ。

前回書いたように、次兄の不幸な交通事故死に遭遇したことで、自分はそれまで止まっていた飲酒が再発していた。ある時、近くのコンビニで酒を買い、前後不覚になるまで酩酊して警察に保護された際に、警察から長男の死の真相を初めて明かされた。それまで自分は身内から「長男は冬場に海を見に行き、家に戻って炬燵に入ってビールを飲んでいたら、運悪く心臓発作で急死したんだ」と告げられていた。父親の因子を受け、自分達兄弟は大なり小なりアルコールに問題を抱えていたから、「そうなんだ…」と疑う事はなかった。それが警察からいきなり、「実はお兄さんは自分から首を吊って死んだんだよ」と教えられ、ひどくショックを受けた。急ぎ姉に電話して確認すると、やはり警察の言う通りだった。姉によると、ヤク中でトラブル続きの次兄の事などで、長男は嫁の実家から“世間体が悪い”などと何度も責められ、ひどく落ち込んでいたらしい。「悩んだ末に独り自死して黄泉の国に旅立った」と事の真相を打ち明けられていた。

自分とは何かと折り合いが悪く、しかもヤクザだった次兄…。とはいえ、その次兄を理不尽な交通事故で失い、その悲しみが癒える間もなく、今度は長男の切ない死の真相を知らされ、自分はすっかり気落ちしてしまった。自分を支えるものが次々と崩れ、唯一の理解者だった嫁も自分から去っていただけに、すっかり独りぼっちになってしまった。でも、生きていくためには何とか働いて生活していかなければならない。生きる張り合いが薄れる中にあっても住む所だけはあつた。だが、やがてわずかな所持金も底をつき、いつの間にか電気と水道が止められて、風呂にも入れなくなっていた。それでも造園の仕事で稼いだわずかな金のほとんどを払い込むことで、なんとかライフラインを維持できた。

しかし、そんな窮状でもアル中仲間だった年配者らが「一緒に酒を飲もう」と持参して家に集まった。そうして飲酒の誘惑に引き込まれ、ついには仕事も失った。自分の人生の歯車は、もはやのつびきならない段階にまで狂っていた。

(以下、次号に続く)

## 7月のバースデー

きん



農業で頑張ってます。

ぴー



ネバーギブアップ

すが



よろしくお願いします。

しょう



今日一日

まさのぶ



今日一日

つぐお



がんばります。

つか



努力します。

みぐ



逃走中....

## 7月の行事予定

- 7月10・16日 秋元病院メッセージ
- 7月14日 潮騒俳句会
- 7月17日 茨城ダルク24周年フォーラム
- 7月24日 潮騒家族会・ピアサポ祭り
- 7月28日 潮騒七夕会・NAバースデー
- 7月30日 潮騒ポウリング大会

## 8月の行事予定

- 8月8日 潮騒海水浴(スイカ割り・BBQ等々)
- 8月11日 潮騒俳句会
- 8月14・20日 秋元病院メッセージ
- 8月28日 潮騒家族会

### 献金・献品を頂いた方 (6月15日現在)

- |          |           |           |
|----------|-----------|-----------|
| ・潮騒家族会様  | ・トーマス様    | ・宮下あやか様   |
| ・匿名希望様   | ・栗原稔様     | ・(株)トーマス様 |
| ・安武様     | ・高田武義様    | ・小田倉様     |
| ・長谷川トキ子様 | ・高橋ふく子様   | ・幸友住宅様    |
| ・K&G企画様  | ・早稲田高等学校様 | ・永山清様     |
| ・幸友住宅様   |           |           |

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。  
 本当にありがとうございました。  
 おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。  
 ありがとうございました。  
 ※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

## 編集後記

本欄には馴染まないかもしれないが、思うところがあるのであえて記したい。その場面は、7月17日の「茨城ダルク24周年フォーラム」でゲストスピーカー?のマーシー(田代まさし氏)の話が終わった時だった。「おいマーシー、もっと自分に正直になれよ。そうじゃなければウチのフォーラムでしゃべってもらわなくてもいい!」。進行役の岩井喜代仁・茨城ダルク代表が語気を強めた。一瞬、会場の拍手が止み、空気が変わったように感じた。実は僕もマーシーの話には同じような思いがしていた。ダルクに繋がって回復の道を歩んでいるとはいえ、かつて一世を風靡した芸能人だけに、彼の立ち位置は相当難しいだろう事は容易に推察できる。しかし、彼もダルクでは回復を目指す無名の依存症者の一人である事に変わりはない。悲しい性なのか、サービス精神旺盛な彼は得意のギャグを随所に散りばめて、各地のフォーラムでも受け狙いに腐心しているようだ。ダルクにおける回復スタイルが個別的であるように、フォーラムでの自己表現も多様であっていい。でも、あくまで基本はステージパフォーマンスではなく、未熟であっても自分に向けた独白(モノログ)のようなものだと僕は考える。非日常の空間とはいえ、力まずに支援者や家族、仲間達に回復途上の姿をありのままに示せばいい。過去の栄光はどうであれ、ダルクフォーラムでは受けを狙う必要はない。日本ダルクでの役割を終えて帰宅し、ひとり裸の自分と向き合うように、仲間の前でも自然体のマーシーから話が聴けたらと願う。(市)

## 潮騒通信 どっこい生きてます! 2016年7号

### Contents

- P② 囚われの身にある未知の仲間たちへ  
～依存症は回復できる病気です!
- P③ 市民参加のビーチクリーン作業で海水浴場が綺麗に
- P④ 短期連載: 潮騒サポーターの熱い情熱  
外部メッセージを届ける恵一朗さん  
「潮騒は日本で一番難しい事に挑んでいる」
- P⑥ ユタカ VS トム 対談 第7回  
「アルコールの仲間達が増えて施設運営が安定する」
- P⑧ クラフトテープでカゴ作りにチャレンジ!  
～女性ハウス「るみの家」メンバーがオリジナル作品作り～
- P⑨ ・多彩な太鼓演奏で盛り上がった茨城ダルクフォーラム  
・みのわマック38周年記念感謝の集いに参加して
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇「海開き」
- P⑭ どっこい私も生きてます「トンちゃんの回復記」第5回

### ■ 編集・発行:

特定非営利活動法人  
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)  
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号  
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10  
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)  
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号  
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16  
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鎌田  
 〒311-2113 茨城県鎌田市上幡木1113-39

E-メール [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)  
 ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



